



伊万里市男女協働参画懇話会 いまりプラザ

さあ、夫婦協働の第一歩を！

私の年齢は30代前半です。

この年代は、男女が一緒に家庭科や技術の授業を受けた世代ですが、私の価値観は、固定的な性別役割分担意識に縛られていました。男性は外で働いているのだから、家でゆつくりできるように女性は尽くさないといけない、女性は家庭を守るものだから、家事も子育ても一人でしつかりやらないといけない、このように思っていました。これは、幼少期から家庭のあらゆる部分

で、『女性は男性を立てること』が習慣として身近にあったからでしょう。

しかし、実際に子育てを始めてみると、自分が思い描くようには進みません。夫に育児や家事を手伝って欲しいと思うものの、どうしてもお願いすることができず、また、思うようにできない自分にイライラし、涙することもありました。そのような中、思い切って相談してみたところ、夫は「言ってもらえればでき

るけど、勝手にしたらイライラが爆発しそうだったから手を出せなかった」と話してくれました。当時は、『イクメン』（育児を楽しむ男性）という言葉がでてきたところで、幸いにも夫は育児をすることに抵抗は無く、今では自然な形で子育てを共に楽しんでいきます。

それ以来、子育てで大変だと感じることを夫婦で共有し、さらに、家庭の中でやるべきことの優先順位を付けることで、気持ちよく生活することができるようになりました。子育てを夫婦で楽しむために家事を協働で行う、そんな一歩をあなたも踏み出してみませんか。

2015 同和問題講演会

「正しく知ることが大切」

8月26日、市民センターで同和問題講演会が開催されました。これは、『差別のない明るいまちづくり』を推進し、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題への市民の正しい理解と認識を深めるため、8月の同和問題啓発強調月間の取り組みとして、市が毎年行っているものです。

今年も、音楽プロデューサーで音楽評論家の藤田 正（ただ）さんを講師に迎え、『竹田の子守唄』名曲に隠された真実』と題して講演が行われました。

藤田さんは、全国的なヒット曲となった『竹田の子守唄（京都の被差別部落で歌われていたもの）』を紹介。歌に込められた苦しい思いや、当時の放送業界の不適切な扱い（歌の背景など何も調べずにうやむやにし、放送禁止とした）



↑「何事も先入観で判断しないこと」と呼びかける藤田さん

により理不尽な思いをした人たちがいたことなどを挙げ、物事を正しく知ることの大切さを訴えました。

郷土の文化財

カブトガニ特集⑤

● 問合先 生涯学習課文化財係
☎ 233186

カブトガニという生き物

ーカブトガニの生態ー

カブトガニは、満潮時につがい（オスがメスにつかまった状態）で砂浜にやって来て、卵がほかの生き物から捕食されにくい海水面近くの砂の中に産卵します。海水面が高くなる大潮前後の満潮時には、特に多くのカブトガニが産卵にやってきます。

卵は、約50日でふ化して幼生（子ども）になります。幼生は、9月下旬～10月上旬の大潮前後の満潮時に海中に出て、引き潮に乗って干潟に移動し、脱皮を繰り返して成長します。10歳（生後約7年で脱皮を9回した幼生）くらいになると、生活の場を沖合の海底に移すと考えられています。

カブトガニが成体（大人）になるまでにかかる年数は、まだ分かっていません。

今年ふ化したカブトガニは、十数年後にはこの伊万里湾に産卵に戻ってくることでしょう。



↑ふ化する前のカブトガニの卵